

タックエクストリーム

TaqExtreme

Cat.No. FG-TE250

取扱説明書 Ver.202409

Cat.No.	製品名	容量	濃度
FG-TE250	FastGene™ TaqExtreme	250 U	5 U/μL

【製品概要】

本製品は、 $3' \rightarrow 5'$ エキソヌクレアーゼ活性(校正活性)を持つ耐熱性のDNA Polymeraseです。通常のPCR条件下において、従来 のTaq DNA Polymeraseと比べて、高い増幅効率、低いエラー率でPCRを行うことが可能です。

【キット内容】

FastGene™ TaqExtreme (5 U/µL) 250 U 10 × TaqExtreme Buffer (Mg²⁺plus) 1 mL dNTP Mixture (各2.5 mM) 800 µL

【酵素のストレージバッファー組成】

20 mM Tris-HCI 緩衝液 (pH8.0)

100 mM KCl

0.1 mM EDTA

1 mM DTT

0.5% Tween 20

0.5% NP-40

50% Glycerol

【保存】

-20℃

【使用例】

PCR 法による DNA 増幅

【仕様】

活性の定義

活性化サケ精子DNA を鋳型/プライマーとして用い、下記の活性測定用反応液中にて74℃において、 30分間に10 nmol の全ヌクレオチドを酸不溶性沈殿物に取り込む活性を1 U とする。

活性測定用反応液組成

25 mM TAPS 緩衝液(pH9.3, 25℃)

50 mM KCl

2 mM MgCl₂

0.1 mM DTT

各200 µM dATP·dGTP·dCTP

100 μM [³H] -dTTP

0.25 mg/mL 活性化サケ精子DNA

純度

- 1. 25 U の本酵素と1 µg の λ Hind Ⅲ 分解物を74℃、16 時間反応させても DNA の電気泳動パターンに変化は起こらない。
- 2. 25 U の本酵素と1 µg のsupercoiled pBR322 DNA を74℃、1 時間反応させてもDNA の電気泳動パターンに変化は起こらない。
- 3. 25 U の本酵素と 1 μ g の λ DNA を 74 $\mathbb C$ 、16 時間反応させても DNA の電気泳動パターンに変化は起こらない。

クローニングへの利用について

本製品にて増幅したPCR産物の多くはTAクローニングが可能です。(3) 末端にAが1塩基付加されるため)また、末端平滑化およびリン酸化を行い、平滑末端クローニングすることも可能です。

【PCR プロトコル】

- 1)全ての試薬を氷上に置きます。
- - 一般的な PCR 反応液組成 (50 µL 反応系)

FastGene™ TaqExtreme (5 U/µL)	0.25 µL
10 × TaqExtreme Buffer (Mg²+ plus)	5 µL
dNTP Mixture (各 2.5 mM)	4 µL
テンプレート	< 500 ng
プライマー 1	0.2 ~ 1.0 µM(終濃度)
プライマー 2	0.2 ~ 1.0 µM(終濃度)
滅菌精製水(dH ₂ O)	up to 50 μL

3) サーマルサイクラーのプログラムを設定します。

PCR 条件(例)

1 kb DNA を増幅する場合

3 Step PCR			2 Step PCR		
98℃	10 sec —		98℃	10 sec —	20 avalas
55℃	30 sec	30 cycles	68℃	1 min \dashv	30 cycles
72°C	1 min —				

- ※ 熱変性の条件は使用するサーマルサイクラーの機種と反応チューブの種類にあわせて設定してください。 設定の目安としては、98℃の場合は5~10秒、94℃の場合は20~30秒です。
- 4) 反応チューブをサーマルサイクラーにセットし、ただちにスタートします。

補足

dNTP Mixture (各 2.5 mM)

dATP、dCTP、dTTP、dGTP の等モル混合物で、希釈せずにそのまま PCR 反応に用いることができます。

• 形状: 水溶液 (ナトリウム塩)、pH7 ~ 9

• 純度: 各 98% 以上



日本ジェネティクス株式会社 〒112-0004 東京都文京区後楽1-4-14 後楽森ビル18階 https://n-genetics.com ☑ info@genetics-n.co.jp ᡂ 03 (3813) 0961 極 03 (3813) 0962